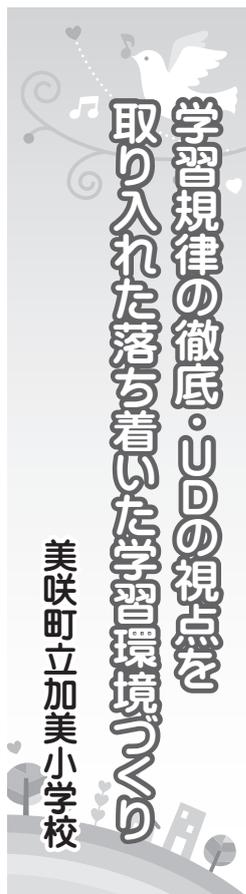


広げよう！優良実践の輪！

～平成30年度 優良実践校の取組～

取組 3



1. はじめに

本校は全校158名の岡山県のほぼ中央にあたる美咲町の学校です。

本校では落ち着いた学習環境をつくるため、平成24年度から特別支援教育の視点に立つて教職員一丸となって授業改善、環境改善に取り組み、現在児童は落ち着いて毎日を過ごしています。

2. 取組の概要

(1) 加美モデルによる指導の統一

児童の荒れや落ち着かない授業への対策の一つとして平成24年度から「加美モデル」を作成し、今年度も細かな修正を加えながら職員で共通理解しています。これまで統一しきれなかった指導内容のブレをなくし、学校教職員が一体となって課題に対応するため、授業中の決まり、持ち物など学校の決まり、特活

などの進め方をきちんと明文化するとともに、始業式には必ず「加美モデル」の確認をする時間をもち、児童にわかりやすく説明したり、再確認したりしてきました。

(2) UDによる授業改善

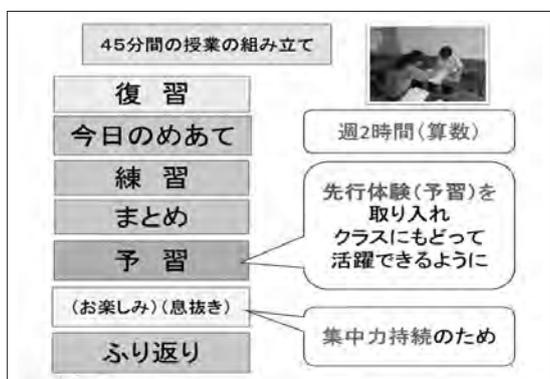
平成26年度から27年度には、県の『魅力ある授業づくり徹底事業』の研究指定を受け、ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組みました。特に「視覚化」「共有化」に力を入れて、すべての教室で特別支援教育の観点に立った環境整備を行うとともにICTなど視覚に訴えかける授業形態をとり、すべての子どもが学びに参加し「わかった」「できた」という達成感をもてる授業づくりに取り組ましました。今ではどこの学校でも取り組んでいることだと思いますが、「加美モデル」の徹底を全職員で共有し、同じ歩調で子ども

もたちに対応することで、学校生活に安心感が生まれました。

(3) 特別支援教室の取組

平成26年度から27年度には、県の「多様な学びの場『特別支援教室』事業」も同時に研究指定を受けておりました。

特別支援教室は県でも先進的な取組であったため、模索しながら行いました。本校では、校内の通常学級にいる特別な支援を必要としている児童に対して、週2時間、保護者の了解をとって算数の時間に、別教室で個別指導をしました。わからないことがわかるという喜びが学びに向かう力の育成につながりました。



特別支援教室での授業の流れ

運営において気をつけたことは、「遅れを取り戻す学習」だけでなく、本学級に戻ったときも活躍できるように先行的な内容を取り入れたり、パソコンを取り入れて楽しく学んだりする工夫をしました。

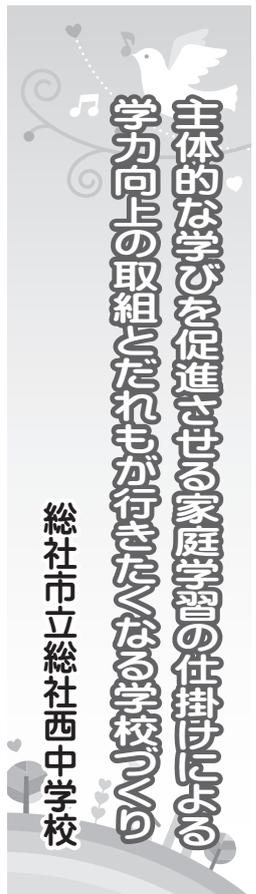


特別支援教室での個別指導

3. 成果と今後のさらなる取組の充実

本校児童は現在落ち着いた学校生活を送っています。そこで、平成30年度からは「次なるステージ」として「幸せを創り出す力」をテーマに、児童の自主性をさらに伸ばし、主体的に生きていく力をつけるためのカリキュラムマネジメントを職員一丸となって進めています。

(校長 梶並裕子)



1 はじめに

本校は、県南部に位置し、生徒数約760名の大規模校です。総社市では、平成22年度から不登校未然防止の取組として「だれも行きたくなる学校づくり」、通称「だれ行き」という研修プログラムを実施しています。この取組により本校では、「教員の指導力」と「生徒の人間関係・社会形成力」が向上し、落ち着いた学習環境がつくられています。

2 取組の概要

(1) だれ行きの取組

学年・時期に応じた手作りプログラムによるSEL（社会性と情動の学習）を行うことでコミュニケーションスキル等を向上させ、それをベースにした協同学習を各教科で実践しています。

また、体育会での長縄跳びの



個人思考後の、グループ思考（協同学習）

コツや宿泊研修の楽しみ方を上級生が1年生へ、中学校生活の紹介を1年生が小学校6年生へなど、異年齢間のピア・サポート活動を積極的にを行い、対人関係スキルを伸ばしています。

さらに、先手必勝の生徒指導を目指し、「Good Behaviorチケット」の取組を行っています。良い行動に対し肯定的な介入をすることで、生徒

の自己肯定感が高まるだけでなく、保護者への情報提供を可視化できるので、教職員と保護者の信頼関係を築くことにも効果的でした。現在は、生徒間のGBカードの取組も行っており、困っている友達に自然に優しい声かけができるなど、支持的風土が醸成されています。

(2) 「いえへの取組」

本校では、家庭での自主学習を「いえへん」と称して、ノート1日1ページ以上を目標に提出するようにしています。全クラス共通で5教科を順に回し、忘れた生徒は居残り勉強をします。居残り勉強はベナルティ感が出ないよう、学習方法や分からない問題を丁寧に教えるなど、教育相談的な要素を大切にしています。

(3) 学区の4小学校との連携

(一貫WEST)

学区内の4小学校との連携活動の一つに、自主学習ノート（本校ではいえへんノート）の継続使用があります。ノート1冊終了ごとに自主学習チャレンジカードを配布して、カードが5枚たまると表彰する取組です。

3 おわりに

ここ数年間で、学校環境適応感尺度（アセス）の教師サポートや友人サポートの数値が上昇し、それに比例するように全国学力・学習状況調査結果も向上しました。

SEL、協同学習、ピア・サポート、PBIS（ポジティブな行動介入と支援）の4部会を校務分掌に位置づけ、全教員が所属し、役割を自覚して積極的な生徒指導に取り組んできたことが、この成果につながったと考えます。今後も全教職員がベクトルを合わせ、特色ある学校教育を推進したいと思えます。

（教頭 平井宏之）



自主学習チャレンジカードと証明書